

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【I, III, V】
2 実施対象者	大和町立宮床中学校（全校生徒 296名） 第1学年（男子51名, 女子55名, 計106名） 第2学年（男子45名, 女子47名, 計 92名） 第3学年（男子57名, 女子41名, 計 98名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 道徳 ） ② 行事名（ オリンピック・パラリンピック教育講演会, シットイングバレーボール体験学習 ） ③ その他（ 図書室経営による啓発活動 ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	困難を乗り越えながら目標に向かって努力する姿やスポーツを通して人生を充実させる姿など、選手の生き方を学び、オリンピック・パラリンピックの精神への理解を深めるとともに、自己の生き方を考える機会とする。
5 取組内容	(1) オリンピック・パラリンピック教育講演会 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>日 時 平成30年9月5日（水） 場 所 宮床中学校体育館 対 象 全校生徒（296名）、教職員 講 師 高橋 弘篤 氏（富谷市出身スケルトン選手、ソチオリンピック・平昌オリンピック出場）</p> </div> <p>近隣の富谷市出身のオリンピックである、高橋弘篤さんをお招きし、「失敗から始まったスケルトン人生 ～目標設定の考え方～」と題した教育講演会を実施した。講演では、スケルトンという競技との出会いや、困難を乗り越えながらオリンピックに出場する選手になるまでの経験談、選手村の様子などオリンピックに出場して体験した裏話なども含めたお話しをしていただいた。また、講演の終盤では、「目を閉じて片足で立つ」など、生徒もすぐに実践できる</p>



ビジョントレーニングを教えてもらい、実際に全校生徒で体験した。



## (2) シットイングバレーボール体験学習

日時 平成30年11月13日(火)  
場所 宮床中学校体育館  
対象 1学年生徒(106名), 1学年担当教員  
講師 宮城県シットイングバレーボールチーム  
「第二塩化リソチーム」の皆さん

宮城県内のシットイングバレーボールチーム「第二塩化リソチーム」のメンバー9名(うち障害当事者3名)に講師として来校いただき、1学年の生徒を対象に「シットイングバレーボール」の体験学習を行った。当日は、基本動作の練習から行い、後半は一年生全員が8チームに分かれて、ミニゲームを行った。チームの中には、障害当事者のプレーヤーの方にも入っていただき、生徒のプレーをサポートしてもらいながら、一緒に競技を楽しむことができた。



## (3) 道徳の授業実践

学年ごとに関連資料を選定し、全学級で授業実践を行った。

実施日 9月3日(月)

1学年 「観客席の両親」

内容項目 2(6) 感謝の心  
(光村図書: きみがいちばんひかるとき)

2学年 「夢を求めてパラリンピック」

内容項目 1(2) 希望と勇気, 強い意志  
(光村図書: きみがいちばんひかるとき)

3学年 「挑戦」

内容項目 1(2) 希望と勇気, 強い意志  
(光村図書: きみがいちばんひかるとき)

(4) 図書室に「オリンピックコーナー」を設置

6月から、図書室内と図書室前の廊下に「オリンピックコーナー」を設置し、オリンピック・パラリンピックの情報を発信した。コーナーは定期的に新しい内容に変え、教育講演会で講師を務めていただいた高橋弘篤さんの近況等も掲示するなど、生徒の興味・関心の高揚を図った。



6 主な成果

・近隣の地域出身のオリンピックを招いての講演会を実施したことにより、生徒たちはオリンピックをより身近なものとして感じる事ができた。多くの生徒は「スケルトン」という競技をあまり知らなかったが、講演会を通じて様々な競技があることを知ることができた。また、失敗を次の目標に向かうきっかけとしていくことなど、高橋さんの経験を生かした考え方は、生徒の今後の生活に向けて大変参考になるものであった。

【生徒の感想より】

・スポーツはもちろん、何事も始めから完璧にできる人はいないんだということを学びました。どんなにすごい選手でも、日々のトレーニングや練習の積み重ねで今があることを知り、周りより劣っていたり、失敗したりしても努力をあきらめないことが大切なんだなと思いました。

・私にも将来の夢があるけど、英語ができないことで否定されていたけれど、目標をもつことは大事と聞いた時、あきらめずに目指していこうと思いました。

・私はトップアスリートのお話を聞くことができるともうれしく思いました。失敗しても挑戦することの大切さなど、今後の自分の人生に役立つ話が聞けて良かったと思います。また、私はオリンピックの裏話や外国人との交流の話に興味をもちました。世界で活躍する人は、外国人と交流したり、コミュニケーションをとったりして広い視野をもって生活していることをすごいと思いました。私もいつか世界で活躍できるような広い視野をもてるようになりたいと思いました。

・今日は、普段はテレビでも見れないオリンピックの裏側や高橋選手の体験などを聞くことができ良かったし、ますますオリンピックに興味が増えました。

・オリンピックについて、前よりも興味をもつことができました。そして、「スケルトン」という競技をはじめて知りました。私はもっとオリンピックやパラリンピックに興味をもち、いろいろなことを学びたいです。

	<p>・パラリンピックの種目である「シッティングバレーボール」の体験学習を通して、生徒は健常者も障害をもつ人と一緒にスポーツを楽しむことができるということを学ぶことができた。また、障害当事者の方の話から、生徒は、自分や他人の「個性」を尊重し合いながら、共に生きていくということについて考えを深めることができた。</p> <p style="text-align: center;"><b>【生徒の感想より】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は最初、障害者スポーツというのは、その人たちだけがやるスポーツだと思っていました。でも、選手の話を知り、健常者もやっているのを知って、普通のスポーツよりも幅広くできるスポーツなんだと思いました。</li> <li>・自分たちが座れば、足のない人も楽しくスポーツができるという言葉が、なんか心にぐっときました。確かに立ってスポーツをすることはできないけど、座れば楽しめる。今まで足のない人はスポーツはできないんだと考えていましたが、この言葉を聞いて考えが変わりました。足のない人や障害をもっている人でもスポーツは楽しめるのです。</li> <li>・ぼくは、今日初めて足の不自由な人を見たので、最初はびっくりしました。でも、人の個性で、いろいろな人がいるから気にしていないという考え方がすごいと思いました。その前向きな考え方が、今日一番印象に残りました。</li> <li>・「体にどんな障害があっても、障害のない人がその人たちに合わせて、みんなで一緒になってやれば、どんな人だって楽しく運動ができる。」この言葉を聞いて、障害のない人にもたくさんできることがあって、お互いに助け合いながら生きていくことが大切なんだと思いました。これから、私たちにできることを考えていこうと思いました。</li> <li>・選手の話を知り、自分は、障害者より障害をもっていない人の方が多いんだから、障害をもっていない人がこのようなスポーツをどのようにして続けていかや、できることを考えていけば良いと思った。パラリンピックやオリンピックを見て、選手の皆さんが本気でやっている姿を見てみたいと思った。</li> </ul> <p>・教育講演会の直前に全学級で道徳の授業実践を行ったことで、生徒は道徳の時間の内容と実際の講演会での話を関連付けて考えを深めることができた。</p> <p>・図書室の「オリンピックコーナー」により、生徒はオリンピック・パラリンピックの情報を目にする機会が増え、興味・関心の向上が図れた。また、講演会講師の近況等も発信することで、オリンピックを目指す選手を身近な存在として応援する気運が高まった。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒がオリンピック・パラリンピックをより身近に感じられるよう、近隣出身のオリンピック選手を招いたり、パラスポーツの体験学習を取り入れたりした。</li> <li>・教育講演会の直前に道徳の授業実践を行ったり、講演会講師の活動を「オリンピックコーナー」に取り上げたりするなど、各取組を関連付けて行った。</li> <li>・体験学習を実施する際には、指導して下さるチームの皆さんと事前に打ち合わせを重ね、限られた時間の中でより効果的な体験ができるよう工夫した。</li> </ul>
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会の講師や体験学習の指導に適する団体を自校で見つけ交渉をするには、時間と労力を要した。</li> <li>・事業開始時期が年度途中であるため、年間を見通した計画が立てにくく、校内での共通理解を図る上でも課題となった。</li> <li>・それぞれの取組が単発で終わらないよう、相互の取組の関連付けや体験等での学びを日常生活に生かす指導など、継続した取組となるような工夫が必要である。</li> </ul>
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の「オリンピックコーナー」を今後も継続し、身近なオリンピックである講演会講師の情報等も定期的に発信しながら、今年度の取組を踏まえた実践に取り組んでいきたい。</li> </ul>